

97年度

春山, GW, 新人合宿
報告書



信州大学 山岳会

目次

P1~ · 個人山行(1~5月)

P7~ · 南アルプス縦走

P19~ · G.W 合宿

P27~ · 新人合宿

P54~ · 1年生の作文集

個人山行

97 1月~5月



1/24~26 11ヶ岳西面 石尊稜 & 小同心的ラック
山花谷、原田

記録

1/24

1/25

松本 5 5:00

8:30 起床 ⊗

美濃戸 A 6:40 5 7:15 ⊗

悪天のため、小同心的ラックをやめ、

赤岳鉦泉 A 9:15 5 10:06 ⊗

ジョウゴ沢で"アイスライミング"

石尊稜取付 A 11:40 5 11:50 ⊗

(10:30 ~ 12:30 ⊗)

終点 A 16:05 ⊗ 強風

12:55 赤岳鉦泉 5 ⊗

赤岳鉦泉 A 18:30 ⊗

14:05 美濃戸 A ⊗

反省・感想

了プロチと登山を 1日やり場合は 早く松本に出る必要が有る。
天気が悪く、非常に寒かった。ヒレの中は 17 時の感覚が 消えた。
稜線上で吹きたまりの雪が 2回 流れた。コンチアスと稜線
を歩いた。また花谷の氷が、日没近くにやと樹林帯にたこ
りつき、身の危険を少し感じた。技術的に不安は 1ヶ所だけ、
雪の量が多いと体的にキツい。

烏帽子ヶ岳 (中央アルプス)

山形 前原

トレーニングのつもりで入山したため、特に記録は残っていない。
ザイルを持っていったが、頂上下150m付近で大雪崩と足場
崩壊の危険を感じたため引き返して来た。この時期は、上部
のみとはいえ、積雪のある山、ましてザイルが木を切る等
山は、軽いノリのトレーニング山行には不向きである。

北ハケ岳 縦走 9/23 ~ 2/17 (3+2)

CL けらだりおすけ(2), 小林茂幹(2), 川村朋子(1), 田中基樹(1)

2/3 起床 9:20 = 12:10 美濃戸 15:10 ~ 15:30 赤岳 鉢巻 TS

2/4 起床 4:30 TS 6:30 ~ ① 硫黄岳 11:40 ~ ② 硫黄岳山荘 TS

赤岳 鉢巻 ~ 硫黄岳 まではトレスがぼつちりしてはいる。稜線
上も風は少々あるが晴水だから問題なし。硫黄岳付近がス
のときは要注。川村のウエの調子もけて早めたTSをとる。雪洞と
くって遊ぶ。

2/15 起床 4:30 TS 6:30 ~ 横岳 ~ 9:30 地蔵の頭

10:20 赤岳 ~ 13:20 地蔵の頭 ~ 14:20 赤岳 鉢巻 ~ 15:00

美濃戸(下山)

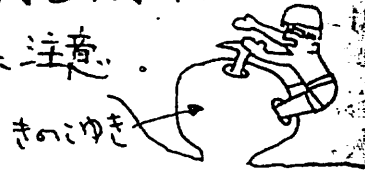
横岳付近は少々一年生は恐ろしくおかしな山。東側の
氷を溜りのトロボースは雪量によっては雪崩に要注。

鹿島槍東尾根 1997 4/19 ~ 23 (3+2)

CL はらだり けいすけ , 山内哲文 , 前原徹

4/19 松本 5:15 = 6:30 大谷原 7:50 ~ 10:55 - 沢頭
~ 13:55 = 1 沢の頭 BC

- 1 沢頭 ~ 2 沢の頭 は あつどれ けいすけ。アイゼンが通る
雪が溶けてくる午後には特に注意。



4/20 起床 4:10 BC 5:45 ~ 6:30 第一岩峰。~ 9:00 第二岩峰
~ 10:40 北峰。11:05 ~ 14:00 第二岩峰基部。~ 17:45 BC

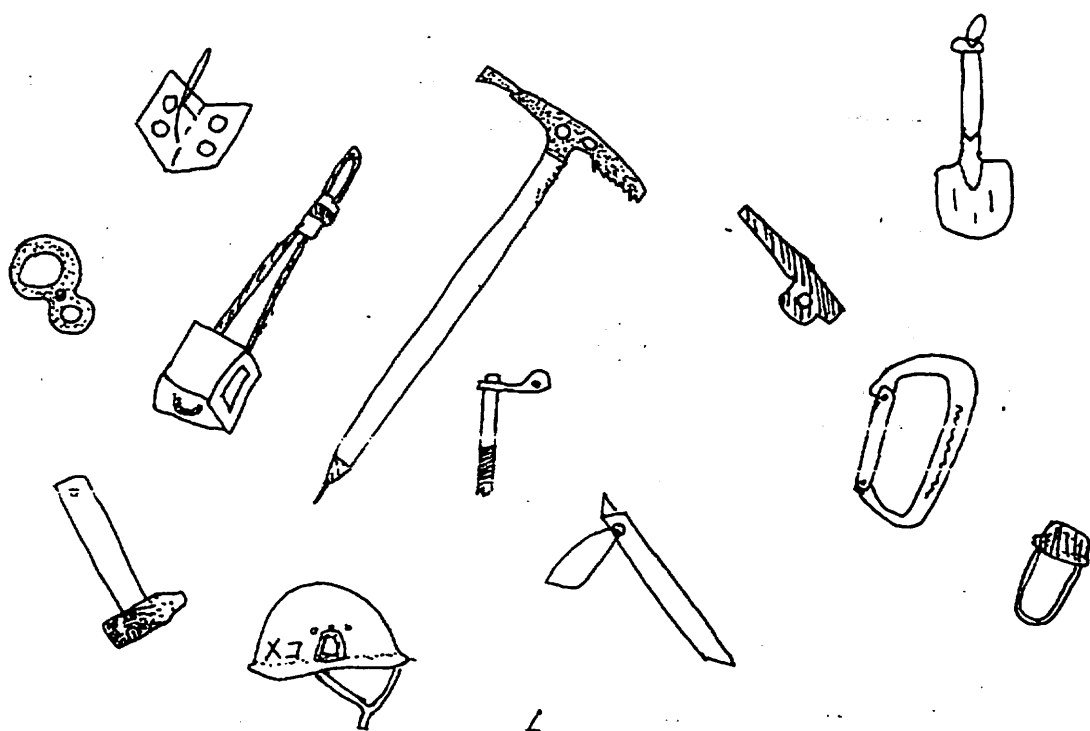
第一岩峰は出たしと最後以外はほぼ雪壁に付いて登る。第二
岩峰は崖らしい壁が出てき、アイゼン岩トレをしっかりと
いと恐れた。今回最も恐かったのは第二岩峰 ~ 北峰の
ピストンだった。雪がくっついて歩踏み出さぬ度にアイゼンが
ゴトになり、足もとがすべる。

4/21 起床 5:00 BC 6:30 ~ 7:15 - 1 沢頭 ~ 8:45 大谷原

今回 BC をはって アタック と 117 形にした。これは
重い荷をもち、バリエーションを登るのにはつらかった。若
くしてのことだが、アタックにした場合午後9時の雪のくっつき
る時間に下降しなければならぬ。この雪崩が
怖い。アタックにすれば、終了後 縦走路に板付
しても少人数 精鋭で行くべきだった。

中止になっに山行たち

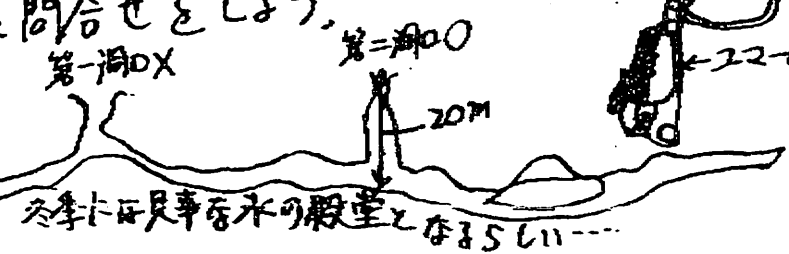
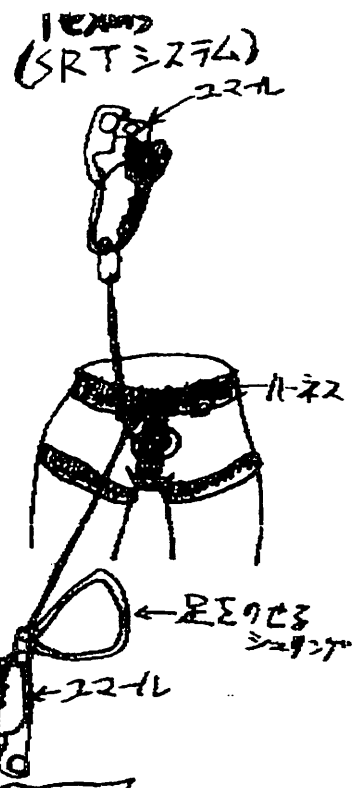
- 中ア 木曾駒 山伊藤
- 1/30 - 2/1 唐沢岳 幕岩 雲峰ル-ト 山中山嶋(08) 花谷
天候不良で中止。(白馬村では1晩で50cmくらいの積雪があり
アプロ-チの唐沢が危険と判断) 来シーズンから もう一度チャレンジしたい。
- 3/12 - 16 戸隠山 八方睨 山花谷 南ア縦走が長引いたため
- 3/12 - 16 戸隠PI 尾根 山山内 "
- 3/17 - 20 舟沢 蛭ヶ岳 大室山etc 山川井 メンバーの都合により
- 3/22 ~ 26 空木岳 山小林 "
- 4/20 21 有明山 山麦谷 ゲートが壊れた。
- 5/3 - 7 北ア 六白山 山花谷 計画書だし忘れ。



ケイビング
 相模風穴第一(第二洞口)
 堀, 中島, 磯部

初めての堅穴だったのひ少しにわがたか、
 垂直下降とユマールでの登高ができた
 問題ないという程度だった。

周辺の洞穴は許可が必要になった
 ケイビングに行くときは日本山洞窟
 協会に問合せをしよう。



年中に滋賀か岩手にケイビングに行きたい存...

馬杓子岳 東壁 1997 5/4-7 (3+1)

山はらだりょうすけ, 山内哲文, 小林茂幹, 麦谷水郷, 野田聡,

5/4 松本 5:45 = 7:15 猿倉荘 810 ~ 1010 双子岩 BC

5/5 沈澱
 寒冷前線(通過により) 4日夜半(雨), 5日朝雨
 の弱まりとともに強風。雨は5日正午頃に上がるが
 風は残る。

5/6 朝9時まで待機するも、風、ガスがおこり登攀
 をめきらぬ下山。再び別の前線を伴った低気圧が
 日本海通過のため。

BC 10:00 ~ 10:50 猿倉荘

南アルプス縦走

光岳 ~ 北岳

1997 2/22 ~ 3/16 (16日 + 予備7日)

1年の夏の縦走でこの「光 ~ 北岳」を歩いた札幌谷はすっかり南アルプスが気に入ってしまいいい
ながら冬に行きたいなと話さうになっていた。そこでこの計画を立てた。合宿がたいに少くなかったが
2年生以上の部員の不足という理由からこの春みんなが南に集結することになった。

はらだ りょうすけ

2月22日(土)

松本 5:40 = 10:45 易老渡 11:20 ~ 13:20 面平。

~ 13:55 TS (1500m 付近)

雪は思っていたより積るかに少なくて、たいたラッセルも
ない。易老渡を出てしばらくは着が凍って歩いて歩きづかい。下り
ながらイゼニが無難なところ。マーキングは聞いていた通りた
くさんあった。

今日の感想：小林

A.B パーティーに乗せた山内さんと堀の車が、雪の林道を底をズリズリ
いわせながら易老渡に着いた。とうとう始まった。もう戻れない。
いつでも出発は不安とためらいと義務感の中にある。マントを
身に付け、バックも背負い、二人に別れを告げる。歩き出せばいつも、
気持ちはず前に向かう。「歩き通してやる」決意は固いが体は軟弱だ。
『本当に大丈夫か？』由 面平から聖を見上げたときには、既に決意は
フニマフニヤだった。

2月23日(日)

起床 4:30 TS 6:20 ~ 11:20 エセピーク ~ 12:55 易老岳 TS

TS から 2時間ゴクカンをマける。ウダ下 ~ 腰までのラッセル。
易老岳手前のヨレの前後は急に付いてFixする程どぼろりだが、リボ
足でゆくべき。易老岳付近はマーキングが少なくて分岐がわかりづ
い。北側のマーキングはずと見えてくるが、蒸気側はよくわかりにくい。

今日の感想：川井

この日はおーっと登り。雪はそんなに深くなかったが、傾斜が急で地図
で見ればすぐ近くなのに、易老岳山頂にはなかなか着かなかった。せと山頂に
着くと天気は快晴、景色も良かったし友人と喋って空の青さが印象的だった。

2月24日(月)

起床 500 TS 635 ~ 1045 光岳 1110 ~ 1325 易老岳 TS

易老岳 ~ 三吉平まではマーフは少ない。稜線をはずさずに行く。
三吉平からはヒンゼ上(夏道)をゆく。雪が安定していればよいが積雪直後
ほどは入りやすい方がよい。ただしイザルが岳への直登は傾斜がきつ
くかなりの労力と時間が必要だそう。ヒンゼを横切って対岸の尾根に
取り付くのも一つの手段。

今日の感想: はやに

一日中好天。光った雪原がいろいろな感を増す。帰りにはみんなで「ル
ジエの伝言」合唱。向故が皆知っている。TSが見える待っている山
々に心落ちた。

2月25日(火)

起床 430 TS 630 ~ 1000 希望峰 ~ 1118 茶臼岳
~ 1240 御花畑 TS

希望峰までは結構密な樹林帯の嫌なラッセル。ルトラ
インディングはそう難しくはない。希望峰からアイゼンにチェンジ。
視界さえよければ問題ない。風の少ない所を探して御花畑
の端のくぼ地で幕営。

2月26日(水)

起床 430 TS(-時待機) 815 ~ 945 上河内岳 ~ 1300 聖羽屋

天気は回復の見通しがあつたので風が弱まるのを待って出発。
上河内からの下りは晴れた方がよかったものがガスでたイルト
ライディングはかなり困難だそう。

今日の感想 小林

強風の稜線歩きはつらい。寒いし視界はきかない。吹雪の中の雷鳥は仙人だ。上河内の下りはダルイ。深雪に足をとられる。回復した天気のおかげでベタ雪だ。下午に聖平の小屋が見えるからザックが肩に食い込む。小屋の中で焚火。明日の聖の登り以外、何もかも忘れて火に見込む。本当は聖も忘れたい。1997年2月26日聖平。幸せだ。

2月27日(木)

起床 440 聖平小屋 625 ~ 810 2662mピク ~ 950 聖岳 1010 ~

1200 コル ~ 1500 乗楽避難小屋 TS

聖の登りは頂上直下が急に切れている。強風時は注意。

聖からの下りでFixを出す。夏道は稜線の北側をまわっているが、雪崩が危険なため稜線をとる。(Fix: 50m・40m・50m) 兎の上りは急登 ~ リッジ - Fix (Fix: 50m)

今日の感想: 花谷

この17日間で一番おもしろい日だった。T=ピク14日ない。FIX張りにも苦労し、ヤセた稜線があり、気の休まる身もない日だった。何より雪面をトラバースしている時に谷側の足のトレースが突然、くずれて5m程滑落。木につかまって止ま。T=ピク木が折れた。とくに、つかれた。

2月28日(金)

起床 400 TS 535 ~ 605 兎岳 ~ 640 小兎岳 ~ 730 轡丸
~ 810 大沢岳 ~ 905 百間平 ~ 1220 赤碓避難小屋
◎強風

兎からの下りは変な地形をしていてわかりづらい。また、大沢岳からの下りもガス、下るときは要注意。赤石の登りはどこも登りが遅かった。ガスのときはいかに無難。小屋に近く直前に天気が急変。あと30分遅かたが核心で強風にたふかされた。

今日、感想：川井

行程長くとはした。雪がクラストしているせいで冬でも夏とそんなに変わらないタイムで歩ける。赤石岳の山頂の少し手前の急登は激ツワ。途中、少しづつになりながら登った。又、避難小屋の近くでは風が強くて、1歩も動けないような状態になったりして、もう「風強しよー」と思って歩いていくと、立派な赤石岳避難小屋が僕らをむかえてくれた。新築でまた木の香りのする小屋の中は風も強く快適な気が、いささか広く寒かった。やはりホッとして、中で焚き火かきできるような小屋の方がいい。

3月1日(土) 沈澱

起430 (←時待機) → 900 沈澱決定

前線を伴った日本海低気圧の影響で1日中強風でくもり時々雪。

今日の一言：小林

沈澱。この日も、神さまが用意してくれた安息日と、罰あたりにも、「動けない日」ほどと考えるはいけない。きっと「動かなくても良い日」なのだ。沈澱。決めたからには徹底して沈澱したい。テオの底、眠りの底で。よんでいたい。荒れる3000mの稜線上でよんでいたい。ラジオが運ぶ下界の音楽と、風と小屋とかがあげる悲鳴と、どちらか心を動かすだろうか。海拔3000m。それにしてもこの小屋は寒すぎる。

<C110-T1-1行動>

15:05 (林道で登れる所まで車で登り) 車を降

15:40 釜川小屋

3月2日(日) 沈澱

起床400 小屋 550 → 赤石岳

朝出発するが地吹雪で目が見えなくなってしまう。5分づつ休憩。9時まで待つが風は弱まらず沈澱好。天気

<C110-T1-1行動>

5:05 起床

6:30 出発

12:45 三伏峠着

3月3日(月)

起床 400 TS 555 ~ 645 大聖寺平 700 ~ 910 前岳 ~

1150 渡渉終了。 ~ 1600 高山裏避難小屋。

前岳の登りの最初の岩峰は右のガラガラのルンゼをゆく。
その上の頂上近くの岩(右がイマ)にFIX(25m)を出すのが易い。前岳から
300mほど上ったところのジャンクションから下降尾根へ入る。樹林が
出るところまで下り、ルンゼ側へ斜面を下る。ルンゼの直は樹林の切
れ目ところから対岸の樹林まで一人ずつわたる。高山裏までのトラバース
は表面クワスト中はツカサの雪が最悪。途中で小さなルンゼを下り高山裏
の谷へ谷をつぬく。

今日の一言・川井

この日は、この縦走中最悪最悪の日だったといっても過言ではない。
その高山裏への登り、雪、クワストしてると思ってたほど体重かけた
ら「スボッ」。木と雪面の上に立ってズリズリして2、3歩歩いた。また
た「スボッ」。ワカンにはきかなくても、ズルズルズル(おろろ)「スボッ」。雪
面から3、4cmはかたく、その下はザラザラのさび目雪、全然進まず。
精神的にも肉体的にもまいった。急な斜面とかは4つ足になり、
スボらないように努力した。レーションもほろとろで無くなり、へたへたに
なつて避難小屋に着いた時はもう天候のためにはいる時間だった。

<Cパートの行動>

偵察山行(1)

5:00起床 - 6:40(三伏峠)発

7:35鳥帽子岳山頂 - 9:25小河内岳着 - 9:40発

12:00. 三伏峠着

3月4日(火)

起床 400 榎 550 ~ 725 板屋岳 ~ 830 大日影山 ~

1030 小河内岳 ~ 1140 鳥帽子 ~ 1230 三伏峠小屋。

板倉岳 ~ 大日影山間は静岡側をトラバースするが雪の状態
により2-1は雪崩に十分警戒するべき。

<Cパーテ-の行跡>

板倉山行の

5:00 起床 - 6:50 発 - 7:45 本谷山着

13:00 本谷山発 - 14:00 三伏峠着

[この日Cパーテ-と三伏峠で合流。A,Cパーテ-は北岳を目指し、Bパーテ-
は塩見岳へ下山]

3月5日 (水)

起床 400 榎 550 ~ 645 本谷山 ~ 922 塩見小屋 945

~ 1145 塩見岳 1210 ~ 1410 北荒川 TS

三伏小屋からトレースもありラッセル9レリラッセルもなく期待
外れといえど期待外れだった。塩見岳直下は夏道ではなくその右
のレンゼにFix (40m) して登るが、夏道を登ってもよかった。塩
見からの下りも傾斜がきつくと気が抜けない。

今日の一言: 山内

三伏小屋でB隊に別れを告げ、塩見へ歩きはじめて2時間たつて、
勇太郎に車のkeyをわたすのを忘れてたことに気づく。「うきょ^①さかんでも
どーしようもないことにも気づく。しばらくは、勇太郎のおちこぶ姿や前原の
ぶーたれる姿等が思いうかび、後悔の念にいたたまれたが、晴天のもと
風のふく塩見岳についての時は、すっかり忘れてしまった。山はきれいだった。
— The sky is too BLUE to remember it! — 山内 哲文

3月6日(木)

起床 500 TS 650 ~ 1250 熊平小屋。

ラッセルが主となる区間だが雪が少なくてつまらない(?)。熊平小屋は、後線を井川越までたどってカウ探るのが無難。

今日の一言：花谷

気持ちよい一日を予感させた朝だった。雲のない青空。この行程中で最も高気圧がはいると、そして熊平についた瞬間の日光浴とカマキ。正面にあった真白の農鳥岳が場違いに見えてびっくりした。ショウアやタケノコもほせて熊平最高!!

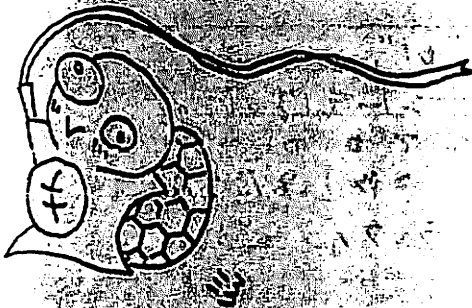
3月7日(金) 沈殿

起床 400

7:00頃 井川越まで復察に行くも視界悪く(10mほど)、時折雪もぱらぱらと沈殿と打つ。

今日の一言：野田

右の山は標高3500mがな目射しをしてヤチ米。これも昨日の山。頂上には湧く飲水も、うまいよな食欲も。昨日の山は思いつく。沈殿もたまにはイカも。



3月8日(土)

起床 430 幄 615 ~ 840 三峰岳^① ~ 950 間岳^②

~ 1115 北岳山荘 1150 ~ 1245 北岳^③ ~ 1415 北岳山荘

三峰岳の登りは頂上直下で岩が出てくる。コル杖のとこりに
Fix (40m) する。間岳手前の岩峰は右から慎重にまく。間岳が
の下りはガスのときは注意。北岳直下の雪壁は下りは結構
シブい。北岳から鋸岳が見えた。あれからもう一年たった。最
後まで気を抜くまいと気合を入れ直す。

3月9日(日)

起床 430 TS 625 ~ 730 八本歯のコル^④ ~ 1105 池山御池

小屋^⑤ ~ 1340 林道^⑥ ~ 1440 荒川橋 TS

八本歯のコルへのトラバース道は滑落に気を付けて好がり慎重
に。雪の状態によっては雪崩も気を付ける。八本歯のコルからの上り
は岩稜 ~ リッジとなっており Fix (50m) する。樹林帯はマキ
シガたけで迷うことはない。道が凍っているので林道まで
アイゼンをつける。倒木も危険。

A日の一言：中島

下山107-炸裂、2m位の所で“カ”

林道沿いの発電所の中にテントをたいた。

池山御池で同様のカキカはでかかった。

お池付近は気持よかったです。ここも池山御池は

登ったこと尾根の間にランタンを

南了縦走の総括

。パーティ分けについて

今回前半後半に分けてみたがなかなかよかった。1年生2人はいし3人に対して2年以上が常に4人7くことができた。上級生の数が足りないことが近年多く、全体で動くところとしても1年生の教の方が多い分けてしまう。それを前半と後半に1年生を振り分けることにより解決できる。今後の合宿で取り入れるのもいいと思う。

。雪について

今年雪は少なかった。積雪量も例年より少なく、入山の前に少し雨が上で降ったと思われずふしもあり、鬼ヶ原のラッセルを覚悟していたわりにラッセルはキツくなかった。

また朝の冷え込みで雪面はクラストし、朝は樹林帯でもアイゼンで歩けた。午後になると徐々に雪面は溶けて下はさうめ雪になっているので歩行に苦労した。

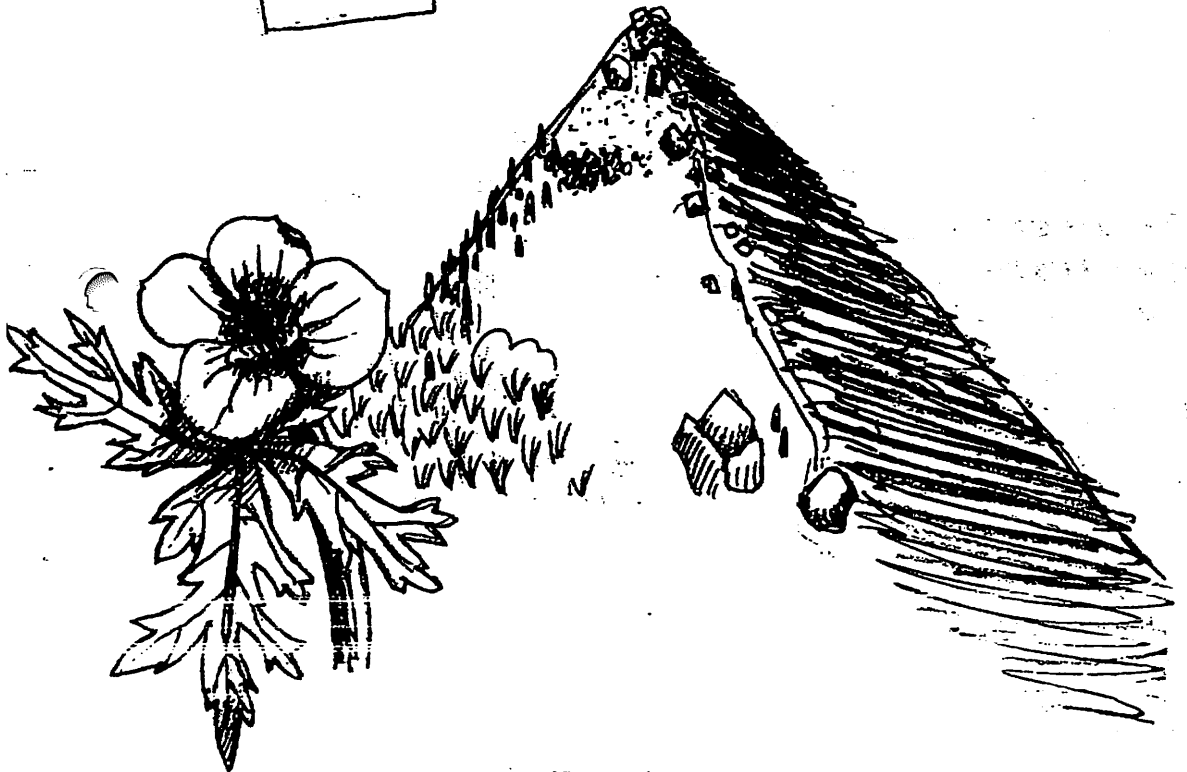
。気象について

天気は北了に比べ晴れる日が多いが、やはり3000m峰の連なるルートだけに、一度閉じ込められると動けなかった。荒天の前後は稜線上は猛烈な風が吹き、動くタイミングを間違えたとすると危険である。晴れるときは比較的晴れるので荒れた日おと好しく行けた。

GOLDEN WEEK

合宿

4/28 ~ 4/30



ミナキニハイケ山の思い出---

G.W.合宿. 係からの反省

G. W. 合宿 医療反省

・医療缶の中身

| | |
|--------------|-----------------|
| バファリン (傷み止め) | ガーゼ (大2、中3、小3、) |
| 正露丸 (腸薬) | 綿花 (角型、ボール型、) |
| パブロン (風邪) | ピンセット |
| ユベラ (凍傷、肌荒れ) | 体温計 |
| 紫雲膏 (火傷) | 耳掻き付き綿棒 |
| イソジン (消毒) | テープ |
| 湿布 | ヒビテン |
| ぼんそう膏 (20枚) | 包帯 |
| 三角巾 (1枚) | ミヤBM (消化剤) |
| 油紙 (2枚) | |

・購入物 : ぼんそうこう60枚

・反省

今回の合宿での医療缶の中身は今までのを参考にしていれました。中身については今までどうりで充分であると共にこれ以上は会では増やせれないと思います。

今回の使用状況はほとんどなく唯一体温計が一度使われただけで、誰も怪我をせず、とても良かったです。

ただ、今回は風邪人口が多く、各自自分自身の体調には充分気を付けるようにして下さい。新人合宿では風邪薬が大量に必要になると予想されるので合宿前には補充が必要になると思われます。

G.W.合宿 気象反省 麦谷

(野田)

- ・気象庁発表の天気予報は、あてにしてはいけない。
 - ・短波の朝5時から気象通報は、利用すべきである。
 - ・天気図ノートでは、台風を記入できない場合がある。
(イマいため)
- ので、天気図用紙と並用すべきである。

中島辰哉

4/27(日) 5:30 Box集合 / 5:50 発 ~ 7:10 沢渡(茶炭)
終日 〇 ~ 7:30 上高地 / 7:50 発 ~ 11:20 岳沢ヒュッテ着

12:20 発 ~ 12:30 雪訓開始(於, 中明神沢) ~ 15:30
帰天

* 雪訓は直上・直降・トコバー入

4/28(月) 4:30 起床 / 6:00 発 ~ 雪訓(於 奥明神沢)

◎ 小雪降る ● ~ 15:00 起天

* スタック、コンテ

4/29(火) 4:30 起床 / 6:05 発 ~ 雪訓(於, 中明神沢)

◎ ~ 12:10 天場 ~ 一般出の説明 ~ 13:45 上高地

* 雪訓はヒッケルストック

G.W 合宿 装備 (原宿)

田中

- 前日までにテントなどもう一度立ててみて調べるべきだった。
- 忘れ物ゼロだったことはよかったと思う。
- G.W F と生米でもOK

エッセン

川井

今回のエッセンの最大の反省点はマカホテのマヨネーズを忘れた事。
1人分のメニューについて何が必要なのか、もとよく考えるべきでした。
あとお米の量が多過ぎた事、1目見て、明らかに予定の量よりも多い
ように思っても、自分で再度確認することをしなかったのは失敗で
した。「あやしいと思、た、確認する」これはエッセンにおいて、た
く大切な事だと思いました。

あとお米を生米にしたのは正解でした。安いし、この時期なるとお米
を炊くのにそんなに時間がかからず、火燃料の消費も少しくすみました。
来年もGW合宿は生米を持って行、ていいと思います。

レーションにゼリーを入れたのは良かったのですが、味の種などを多
く入れたのは失敗でした。レーションはお刺のどか、喝かないものを多
くすべきでした。

とまあいろいろ問題がありましたか、晩飯なんかみんな美味
そうに食、ってくれたんで良かったです。

G.W合宿の感想反省

はらだりょうすけ(2年)

今回GW前半だけを使っての合宿にわり時間的に雪訓のみで手いっぱいというところで雪麓に行けなくみて入山時にはかなり戦意低下していたが雪訓が始まると力が入った。

2年生はおおむねみんな真剣にできていたが、中には嫌々しているようなところも見られた。新人合宿の雪訓ではきびきびとした行動で1年生をびびらせて欲しい。

全体に言えることだが今回は生活等のチームワークでの行動にテキパキとしたものが無かった。新人合宿においては一年生の模範とならなければならぬ。にじがかがらう。

G.W合宿 平松(2年)

感想

雪上技術が身に付いていないことを痛感した。
「グリセード」や「シリセード」は使わなかったし、滑落停止も初めてだった。
合宿中先輩に「もっと気合いを入れろ」と言われたが、その通り。
みんなばうなまきいけないうた。風邪を出してしまったのも、うくに食べられないものだし、もろにあたってしまった。自業自得だ。
岳沢は、他にも、パーティーが見られ、登はんしに行く準備はかかった。
上高地から「アローチ」が短くて、穂高に直登できるところで、とてもいいと思った。

反省

自分自身、中途半端な気持ちでした。

合宿直前、いろいろと忙しかたにせよ、体調を崩してしまたのは良くなかた。お陰で合宿中体がたろかたし、下山してかろもしはろくは体調が戻すが長引かせてしまた。

今回の合宿の目的は、2年生の雪上技術の強化だったけど、自分はおまり満足した成果が上げられなかつた。ビンケルスタッフは最後までできたかたし、その他1年前に教えてもらった事で忘れていた事が多かつた。新人合宿まで若とわか、その間にイメージトレーニングなども交えて、1つ1つをいかりとマスターした。

合宿前、バイト代でバイルを買ひ、「ウッシー、これでバリバリ登、てやろせ」と思、ていたのに使えなくて残念な、た。まあ仕方ないたろ。道具はにけなしい、これからカンカン使、てやろ。

全体的に見て、今回は日経的にも短かく、あまり合宿という気がしなかつた。行く前も、行、た後でも。そのため、空のゆらみが生じてしまた。合宿には1つ1つちゃんとした意味があ、て、必要た、か、ろ毎年同じ時期に行われている。去年1年間や、て、それが分、か、たはずなのに、今回は自分の意識の中にハッキリとその事をうめ込、ま、て、か、て、ま、た、か、た。これからまた1年、何度か合宿をこなす事になるが、自分の役割は何なのか、自分は何を身に付けろ、て、ま、た、の、か、もよく考、え、て、1つ1つの合宿をこなしていきな、い、。

反省と感想

小林 政幹 (2年)

- 反省
- 風邪をひいての入山となつたこと。
 - 雪訓に積極性が足りなかつたこと。
 - テント生活に「しまり」がなかつたこと。

- 感想
- カモシカを見ることか、て、ま、て、う、れ、し、か、つ、た。
 - 新人合宿前に雪訓に自信が持、て、た。
 - 奥穂南稜、コブ尾根に登、れ、な、か、た、の、か、残、念。

田中 基樹 (2年)

反省： ほぼ一年ぶりに雪訓を行った。大まかな雪訓の型は記憶しているのだが、細かい所は、3年生に、言われるまで忘れていた。こんなことでは、新人合宿で1年生に教えることは、難かしいと思う。合宿まで再度、雪訓について復習する必要があると思う。

感想： 岳沢は、手近かに雪訓ができて、大変良い所だと思う。みんな体調が悪く状態での入山したので当初は、どうなるかと思ったが、雪訓でかなりは悪化したのは、一人だけで、みんなそこそこ、気がほっていたのが分かった。ただ、全体を偏して、多少、チビチビ感に欠けていたのが残念だ。今年から教える立場に変わる我々2年生だが、山の知識なども、少し1年生に、つまみ食いして、おぼえてしまうことがある。今年からは、山の知識について、本質から吸収していかなければ……。
新人合宿が楽しめた？

G. W. 合宿の反省

野田 聡 (2年)

合宿中いつも実感させられたのは、使わない技術はどんどん使えなくなるということだった。ピッケルストップに至っては目も当てられないほどで、よくこんな状態で冬山に行っていたものだと思われてしまった。一度練習したから、いいというものではなく、気づいたときに練習しなければいけないと痛感した。

あと緊張感に欠けるところが若干あり、かなり問題だったと思う。岳沢で日程も少なく内容も雪訓だけだったからだろうか？ 気の緩みは事故に直接つながるということを改めて頭にたたき込みたい。

G. W. 合宿 感想と反省

雪上技術は、柔道の受け身と同じように、突差(3)に対応できるように、体で覚えておくのは、何となく(特にピッケルストップ)にもかかわらず、できていたのは問題であった。雪訓は、本当に体で覚えるまで、冬山に備えて、復習すべきだと、実感させられた。 2年(豊谷)

G.W合宿 反省と感想 中島辰哉(2年)

(反省)

準備の時、エッセンの米の量を計り間違い、誤って2倍の米を持っていくはめになりました。長期縦走だったら...と考えると大変なことになってただろう。

雪訓は当初非常におもしろいものであったが、多少感傷を取り戻すことができた。

(感想)

雪訓主体のいか目的の合宿だったが、短期間でこの山に上る感じがした。楽沢とエッセンの天揚はエッセンのいかにしてトイルが遠くになり大変だった。

